

日 時 平成26年12月5日(金) 午前10時 開 議

出席議員 (16人)

1番 村上啓二	2番 工藤和行
3番 黒石ナナ子	4番 今井敬
5番 工藤禎子	6番 佐々木隆
7番 後藤秀憲	8番 大久保朝泰
9番 大溝雅昭	10番 工藤俊広
11番 工藤和子	12番 山田鋤一
13番 福士幸雄	14番 北山一衛
15番 中田博文	16番 村上隆昭

欠席議員 (なし)

出席要求による出席者職氏名

市 長 高 樋 憲	副 市 長 玉 田 芙佐男
総 務 部 長 成 田 耕 作	企 画 財 政 部 長 後 藤 善 弘
健康福祉部長兼 福祉事務所長 村 元 英 美	農林商工部長兼 バイオ技術センター所長 永 田 幸 男
建 設 部 長 工 藤 伸太郎	人 事 課 長 沖 野 恵美子
市民環境課長 木 川 一 雄	企 画 課 長 千 葉 毅
財 政 課 長 鈴 木 正 人	国保年金課長 五十嵐 茂 幸
健康推進課長 木 村 斉 吾	高齢介護課長兼 地域包括支援センター所長 山 口 幸 誠
農 林 課 長 兼 バイオ技術センター次長 玉 田 淳 一	商工観光課長 幾 田 良 一
土 木 課 長 鳴 海 真 一	農業委員会会長 佐 山 秀 夫
選挙管理委員会 委 員 会 長 乘 田 兼 雄	監 査 委 員 廣 瀬 左喜男
教 育 委 員 会 委 員 会 長 村 上 良 子	教 育 長 阿 保 淳 士
教 育 部 長 兼 市民文化会館長 奈良岡 和 保	教育委員会理事兼 指導課長兼教育研究所長 宮 崎 晃 一
学 校 教 育 課 長 山 谷 博 文	社会教育課長兼 青少年相談センター所長 駒 井 昭 雄
文化スポーツ課長 成 田 秀 範	黒石病院 事 業 管 理 者 柿 崎 武 光

黒石病院  
事務局 長 沖野俊一

黒石病院  
事務局 次長 小林清一郎

## 会議に付した事件の題目及び議事日程

平成26年第4回黒石市議会定例会議事日程 第3号

平成26年12月5日(金) 午前10時 開議

第1 会議録署名議員の指名

第2 市政に対する一般質問

## 出席した事務局職員職氏名

事務局 長 長谷川 直 伸

次 長 三 上 亮 介

次長補佐兼議事係長 佐々木 聖 人

主 事 櫛 引 亮 兵

## 会議の顛末

午前10時02分 開議

◎議長(村上啓二) ただいまから、本日の会議を開きます。

本日の議事は、議事日程第3号をもって進めます。

---

◎議長(村上啓二) 日程第1 会議録署名議員の指名を行います。

7番後藤秀憲議員、15番中田博文議員を指名いたします。

---

◎議長(村上啓二) 日程第2 市政に対する一般質問を行います。

順次質問を許します。

8番大久保朝泰議員の登壇を求めます。8番大久保朝泰議員。

登壇

◎8番(大久保朝泰) 皆さんおはようございます。自民・公明クラブの大久保朝泰でございます。

2014年も早いもので残り1カ月を切りました。ことしを振り返ってみますと、黒石市制60周年という節目の年でもあり、7月の市制60周年式典、高樋新市長の就任、9月には天皇皇后様の黒石への行幸啓、10月には姉妹都市永川との姉妹都市30周年記念祝賀会を開催しました。また11月21日には衆議院が解散され、12月14日の投票日に向かって皆さんもいろいろと忙しいことと思います。いろんな意味でことしを振り返ることも今、この時期だからこそ必要なことだと思います。

さて質問に入ります。ことしのねふた祭りの参加数は63台で、昨年より1台減少しています。過去5年間の状況からも平成22年は69台、23年は69台、24年は67台、25年は64台と減少傾向となっています。また、人形ねふたに関しては昨年の6台と同数ではありますが、ここ数年で減少傾向にあります。参加数の減少は、少子化の影響によるねふたの運営ができなくなっていることに加え、人形ねふたの制作費が捻出できないことが原因となっております。人形ねふたと扇ねふたとが入りまじり、県内一、そして日本一、世界一の運行台数を誇っているということ、黒石ねふたの自慢としてPRしてきました。しかし、このような過去の栄光に甘えていれば、黒石市のねふた祭りが廃れていくのは時間の問題ではないかと危惧されます。さらに人形ねふたがこのまま減少すれば、黒石のねふたを各地の祭りに生かしている、羽衣ねふた、中延商店街などにも影響を与えることが予想されます。黒石ねふた祭りを観光として捉えるのか、コミュニティーの延長として捉えるのか、関係部門・関係者が検討、意見交換を重ねているようではありますが、方向性を見いだせない状況であります。

また、来年度は青年会議所が設立60年を迎え、ねふた運行も60周年を迎えます。60年という節目の年を迎える青年会議所はそれぞれ記念事業を検討しているようではありますが、黒石市としても何らかの検討する必要があると思います。行政は予算づけをするだけでなく、もっと実行委員会との連携を図り、祭りのあり方などについて積極的に関与、支援していく必要があると思います。また黒石市は、愛知県稲沢市を初め、東京都立川羽衣ねふた会、品川区中延商店街などねふたを通じた交流を深めており、ねふたの魅力を広める取り組みをしています。ことしのデータによると、全国でねふた・ねふたを取り入れた祭りは県内を除いて15都道府県、約30団体で開催されています。また、ねふたの広がりには毎年少しずつふえており、今や北は北海道から南は九州までに広がっております。2011年には、青森市が主催のねふたサミットが開催され、全国から23団体が参加しました。全国に広がりを見せるねふたを通じての意見交換、多様な交流のきっかけを目的として行われたサミットですが、その後の予定はありません。私はこのようなすばらしい企画が、このまま一過性のもので終わってしまっていることに大変残念に思っております。全国的な交流の場をぜひ、黒石市が先頭を切って呼びかけ、ねふたサミットを開催すべきと考えます。そして全国的なネットワークづくりこそが今後の黒石全体の祭りにとどまらず、観光・商業・農業においても黒石市の活性化にプラスになると確信しております。3年前にも一般質問でこのことを提言しましたが、進展がないようです。ぜひ高樋市長におかれては、黒石市の活性化を図る上でもぜひサミット開催について検討していただきたいと思っております。

以上の事柄を踏まえ、理事者のお考えを3点お伺いいたします。

1つは、来年度のねふた祭りの状況についてお伺いいたします。

2つは、運行60周年への行政の対応についてお伺いいたします。

3つは、黒石市が主催してのねふたサミットについて、お伺いいたします。

続きまして、交通安全について質問いたします。

交通事故の状況は、平成16年の交通事故発生件数95万件をピークにして、ここ近年では減少傾向にあります。平成25年度中の交通事故発生件数は62万件、交通事故発生件数及び負傷者数も9年連続減少しており、死者数も4,373人で13年連続の減少となっております。しかしながら、交通事故死者数の前年比減少率はわずかにとどまり、高齢者の死者数が平成13年以来12年ぶりに増加するなど、交通情勢は厳しい状況にあります。

黒石市の事故発生件数は、平成24年は281件で、平成25年は238件です。交通事故死者数は、平成24年は6件、平成25年は4件でありました。黒石市も全国同様交通事故等は減少しておりますが、先月10日、11日と立て続けに交通事故が2件発生しました。黒石市としましては、緊急事態と言っても過言ではありません。師走を迎えいろいろと忙しいこの時期は、より一層の交通安全を呼びかけ喚起を促すことが必要であります。また黒石市の交通安全における危険箇所の確認やその状況の見直しを早急に行うべきと考えます。

近年、省エネかつ低コストで即効性の高い交通安全対策の一つとしてカラー舗装が取り上げられております。これは道路の一部にカラーリングを施し、視覚を通してドライバーや歩行者に注意喚起を促すものであります。道路のカラー化による一般的な目的・効果は、視覚環境の改善による抑止力の強化、滑りどめ効果による交通安全対策、歩道部分の確保による歩行者保護、目標物の表示であります。路面のカラー化による施工箇所は、主に歩道部、交差点部、バス停、車道、自転車通行帯、通学路などがあります。

カラー舗装については、全国の県や自治体で導入されておりますが、特に愛知県が積極的に取り入れております。昨年のデータでは、自動車保有台数505万台が全国1位である愛知県では、交通事故も多発し、交通事故発生件数も全国ワーストワンを記録しています。そのため交通事故のハード面の安全対策として早期に効果を発現するため、従来からの道路幅による交差点改良等に加え、既存道路内での実施可能な対策として、路面を視覚的にデザインするカラー舗装や特殊な配色により路面を立体的に見せる立体路面標示による注意喚起対策を積極的に取り入れ成果を上げております。また北海道のような積雪寒冷地においても、交通安全対策として耐久性・撥水性の高いカラー舗装が取り入れられております。黒石のような積雪の多い過酷な条件下でも、路面の凍結抑制ができるカラー舗装などを用いることで季節を問わず安全性を高めることができ、ドライバーと歩行者が安心して快適に共存できる道路空間の確保につながると考えております。

以上の事柄を踏まえ、理事者のお考えを3点お伺いいたします。

1つは、黒石市の危険箇所の状況についてお伺いいたします。

2つは、黒石市の危険箇所への対応についてお伺いいたします。

3つ目は、カラー舗装や立体路面標示の導入についてお伺いいたします。

最後にことし1年、大変お疲れさまでした。皆様にとりまして来年もよい年でありますことを祈念いたしまして、私からの一般質問を終わります。ありがとうございました。

(拍手)

降壇

◎議長（村上啓二） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（高樋憲） 大久保議員にお答えいたします。私からは黒石ねふたについての運行60周年への市の対応についてお答えいたします。

来年、伝統ある黒石ねふた祭りは運行60周年を迎えると同時に、黒石青年会議所も来年創立60周年を迎えることになっております。まさに、ねふた運行の歴史とともに歩んできたと言っても過言ではないというふうに感じております。

ねふた運行に際しましては、毎年、試行錯誤を繰り返しながら、これまで長きに渡り、未来の子供たちに夢と希望を育み、世代間交流を通じて地域のコミュニティーの継承に取り組んでこられた黒石青年会議所には衷心より敬意と感謝の意を表すところであります。

運行60周年について市の対応は、まず主催者である黒石青年会議所のねふた祭りに対する思いもあると思いますので、その意志を尊重し、要請があれば対応したいというふうに考えております。

私からは以上です。その他につきましては、関係部長より答弁をさせます。

降壇

◎議長（村上啓二） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） 私からは、交通安全についてお答えします。

市内の平成25年度中における交通事故危険箇所は、青森県警察本部の調べによりますと、先月も死亡事故が発生した主要地方道大鰐浪岡線、通称八間道路の延線上での交通事故が多発しておるといふことでございます。

次に、危険箇所への対応についてでございますが、市では平成25年度はカーブミラー4箇所の新設や26箇所の修繕、また、路肩の改良工事などを実施し、注意喚起看板を3箇所に設置しております。信号機や横断歩道、道路標識などの設置については、黒石警察署へ要望申請しております。

また、危険箇所へのカラー舗装の導入については、安全対策上の費用対効果等も踏まえながら研究してみたいと考えております。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） 私からは黒石ねぷたに関して、来年度の運行状況とねぷたサミット開催についてお答えいたします。

まず来年度の運行台数予定についてでございますが、主催者である黒石青年会議所に確認したところ、人形ねぷた6台、扇ねぷた57台で、ことしと同じ63台が運行する予定であると伺っております。

次に、ねぷたサミット開催についての御質問でございますが、東京都立川市羽衣ねぷた会、東京都品川区の中延商店街振興組合、愛知県稲沢市との黒石ねぷたを通じた交流があり、まことにありがたいことだと思っております。

全国的な交流の場としてのねぷたサミット開催については、本市一市での開催は困難と思われるので、県内でねぷた、ねぷた祭りを開催している他市や黒石青年会議所等関係する団体に対し、その可能性について調査したいと考えております。また広域的には、当市、平川市、田舎館村で組織している津軽南地域新幹線開業効果研究会でも話題にしながら、こちらのほうもその可能性を探っていきたいと考えております。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（村上啓二） 再質問を許します。8番大久保朝泰議員。

◎8番（大久保朝泰） 答弁ありがとうございました。まず一つずついきたいと思えます。

来年度の運行状況は63台ということは、青年会議所のほうからのお話だということではありますが、私がつかんでいる状況では、一、二台減少するのではないかという既に情報が入っております。やはり、このまま台数が減っていくと黒石ねぷたのあり方、考え方もさらに見直していかないといけない中でやはり一番のネックは、子供会単位のコミュニティーでいくのかそれとも観光でいくのかというのが、まだ全然関係者でも見出せていないという中で、運行団体は青年会議所で行政としてはその辺をどうフォローアップしていけるのかなというところのお考えがあればお聞きしたいと思います。

◎議長（村上啓二） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） 議員おっしゃる通り少子高齢化を含めて子供会単位では、一つの町内単位でのコミュニティー単位で運行することについては、かなり限界が来ているものと考えております。以前は市内で企業でも参加していただいたこともありました。その企業の事由等によって撤退したケースもございます。ただ新たな企業や団体または複数の町内単位で有志会を組織して頑張っているケースがあることも事実でございます。現実的には、昨年度も主催者である青年会議所との意見交換の場を設けて、資金の問題、それ

から今後の台数増加の問題等についても打ち合わせを協議した経緯もございます。

会議所の考え方としては、必ずしも台数が減っていくことは、これは時代の趨勢で仕方がないというような認識を持っているようであります。ただ、これ以上減らしていくことは、先ほど議員もおっしゃいましたとおり、たしかに人形ねぷたに関しては他市県外いろんなところで活用状況もございますので、今後どういった対応が可能であるかは、引き続き主催者である黒石青年会議所や運行団体と話し合いの場を設けて協議していきたいと考えております。

◎議長（村上啓二） 8番大久保朝泰議員。

◎8番（大久保朝泰） そうしていただければありがたいと思いますのでよろしくお願いします。

次の運行60周年に関しまして、市のほうでは要請があればという市長の答弁でありましたが、なかなか青年会議所も厳しい予算の中、人員少ない中で、まずそのねぷたというよりも先に青年会議所が60周年を迎えるということのほうに重きを置いているようで、後は今年の弘前ねぷたの事故等があった中で、その辺も含め安全に来年度ができればいいのかなというちょっとトーンダウンしているところもあります。やはりこの辺は、要請があればというよりも一緒に何かやりましょうかというような提案のほうまで行政としても行うべきでないかなと思いますけども、その辺で何かあればちょっと言っていただければありがたいと思います。

◎議長（村上啓二） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） 市長は現在いろんな団体と話し合いの場を設けて積極的に対話を重ねておりますが、あわせてトップセールスということでことしも中延商店街を初めとして、現地での方々との懇談の場も設けております。市でのいろんな対応も含めて、そういった市のねぷたを活用している団体についてもいろんなアイデアがないかということも含めて、市長初めとしていろんな話し合いの場を設けているところでございます。ですからそういったことも含めまして、今後も検討しながら青年会議所とそういう情報も伝えながらあわせて何か対応できるものがあるかどうかを引き続き協議してまいりたいと考えております。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 8番大久保朝泰議員。

◎8番（大久保朝泰） 今、市長がいろんなところで話されているというのは私も聞いております。いろんな話し合いの中でいろんなことが出ていると思うんですが、差し支えなければ市長のほうから何かその中で感じたようなことがあれば一言言っていただければありがたいんですけど。

◎議長（村上啓二） 市長。

◎市長（高樋憲） 私自身も選挙公約の中に夏祭りを市民みんなで今後どうあるべきかということとを協議したいということをお記させていただいておりました。そういう部分でのねぷたとい

うものを考えていきますと、やはり私も先ほど部長の答弁にありましたように、中延商店街また羽衣商店街の方々の意見交換等々もする中において、私自身を感じたことは、黒石ねぷたというのは、やはり青年会議所が今まで推し進めてまいりましたコミュニティー、ここは重視すべきだなというふうなことを感じました。それで観光にもっと特化するべきだという話をする方もおりますけども、でも実際黒石ねぷたを観光資源としてこれからPRする際においても、今の形態で観光資源としてなりえるのかということもありますし、また合わせてですね逆に黒石ねぷたのよさというのは、コミュニティーを重視して伝統を守っていった暁には、それが自然と観光資源に私は結びついていくのではないかなという感じがいたしております。

先般もよされ実行委員会の総会の際にも冒頭の挨拶の中におきましても、ねぷたは青年会議所が今まで育ててきたものを大切にするためにもコミュニティーという部分を重視すべきだということも公の場でも話をさせていただいておりましたので、私自身はそのことを心にとめながらですね、これからの夏祭りというものを市民みんなで検討していければなというふうにご考えております。

◎議長（村上啓二） 8番大久保朝泰議員。

◎8番（大久保朝泰） 市長ありがとうございました。

まさに市長の言うようにコミュニティーの中からの観光という点では、全国的にも少数ではありますがいろんな広がりを見せているところもありますので、その辺も行政と青年会議所と緊密に連絡等協議を重ねていって、よりよいねぷた祭りにしていただければと思いますので、その辺よろしく願いいたします。

次のサミット開催についてなんですけど、実際なかなか厳しいのはわかります。ただ先ほど部長のほうからも黒石一つでは難しいんで近隣というお話の中で、たしかに黒石だけでなく平川も知覧と弘前も太田市と北海道の一部ちょっと今忘れちゃったけど、とか浪岡も交流を重ねているというようなところで、まず大きくやらなくてもできる範囲というのが身近にもあるんで、その辺の方々との連携を取りながらいろんな意見交換の場を黒石でやるということでもいいのではないかと思います。その辺もう一度お伺いします。

◎議長（村上啓二） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） 議員がいま御提言があったことも含めまして、一緒に組んでいる平川市は、津軽南開業効果研究会のメンバーでございますので、そういうことも話題にしながら話し合いの場を設けてみたいと考えております。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 8番大久保朝泰議員。

◎8番（大久保朝泰） ぜひお願いいたします。

参考までに、これは提言で終わりますけど。隣の平川市は知覧と19年間交流して、人的交流までしている中でことしその両カップルがゴールインしたという中で、知覧の女性が平川に移ってきて住んでるといようなことで、人的交流がうまくいった例だと思うんですけど、いろんな交流を深めていけばこういうところまでいけるのかなという中で大きい意味で、考えていただければありがたいと思いますので、これはあくまでも提言ですので考えていただければありがたいと思います。

続きまして、交通安全についてなんですけど、八間道路で多発しているというのは交通量が多いということで、きのうの工藤議員さんのほうからも「3・4・7」でしたっけ、交通緩和という形でいろんな話されてたんですけど、黒石はいろんなところでまだこれ以外にも事故が起きている箇所があるんですけど、その辺の実態把握というのほどのように捉えているのかお聞きします。

◎議長（村上啓二） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） 八間道路以外の危険箇所でございますけれども、黒石警察署で示している多発地点でございますけれども、死亡事故があった赤坂字東池田の交差点、それから上十川字大野一番の交差点などのほか、地区要望で信号機設置要望のある花巻字村家岸のバイパスから町内へ入る交差点、それから追子野木一丁目のエルナー東北株式会社付近の交差点などを危険箇所として把握してございます。

◎議長（村上啓二） 8番大久保朝泰議員。

◎8番（大久保朝泰） いろいろな危険箇所がある中で、次の部分への対応にもなっていくんでしょうけど、なかなか思い通りいかないというのも実態だと思います。市民の安全のためには、ぜひその辺早く改善していただければと思います。その中でも、きのうもいろんな議員さんのほうからあった中で、冬期間になると歩道部分に雪が積もって除雪しないんで通れなくて道路に出てきてそれが危険箇所と、いわゆる冬の時期になると危険箇所がふえるような所というのは、いろんな意味で把握されていると思うんですけど、そのような箇所への対応についてどのように考えているのかお伺いいたします。

◎議長（村上啓二） 建設部長。

◎建設部長（工藤伸太郎） 冬期間の歩道の確保ということだと思いますけれども、市の除排雪事業計画で除雪路線となっている21.3キロメートルの歩道につきましては、一斉除雪の際に小型除雪機械により除雪を実施しているところでございます。また、それ以外の歩道で各学校周辺の通学路などにおいては、冬休み明けの登校に合わせて重点的に歩道の排雪を実施しているところでございます。さらに歩道のない道路につきましては、車道の拡幅除雪を行い児童生徒の安全確保に努めております。また、各地区連絡協議会やPTA、それから黒石市除排雪協力

会が自主的に通学路の除排雪を実施されているところもありますので、交通安全対策の視点からも引き続き御協力をお願いしてまいりたいと考えております。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 8番大久保朝泰議員。

◎8番（大久保朝泰） 今言ったとおりのことをやっていただければすごくいいのかなと思いますが、実際地域や住民の温度差がかなり生じているところが多く見られます。自分の家の前とか地域のその通学路のところはPTAの方々、地区協議会の方々ボランティアで冬の休みの前じゃなくてもやってるところもあれば、全然やってなくてすぐ行政に、「あそこ危ねはんですぐやってけ」と言うだけのところのこの地域の温度差、住民の温度差というのがかなり見受けられます。今もう雪降ってますけど、こうなる前のときにいろんな意味の広報活動使いながら、または地域PTAもしくは協議会のほうに出向いて行って、毎年わかってるんで、そういう箇所の方々にも協力をいただけるようなことを今のうちからやっていただいたほうがいいのではないかと思いますけど、その辺の御見解をお伺いいたします。

◎議長（村上啓二） 建設部長。

◎建設部長（工藤伸太郎） できれば地域との懇談会みたいな形で、業者それから地域住民との話し合いを重ねたほうがいいと私も思っております。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 8番大久保朝泰議員。

◎8番（大久保朝泰） ありがとうございます。ぜひ建設部長だけではなくて総務部長のほうも積極的に動いていただきたいと思っております。あと企画部長さんですか、広報活動もぜひその辺よろしくお伺いいたします。

次にカラー舗装についてなんですけど、今いろんなところで見直されております。まず黒石でできることは何かと思っておりますけど、なかなか予算的なところ、これは警察のほうも絡むことなんでなかなか厳しいとは思いますが、数カ所モデルケースとしてやってみてその状況を見て云々というのも一つの考えではないかと思っておりますが、その辺どのようにお考えでしょうか。

◎議長（村上啓二） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） カラー舗装を実施している八戸、十和田等の状況を把握して、効果なり雪の対応なども考慮しながら研究していきたいとそのように考えております。

◎議長（村上啓二） 8番大久保朝泰議員。

◎8番（大久保朝泰） まさにこれはなかなか厳しいところがあるんですけど、実際交差点2車線の標準とした考えとして、信号機の設置が約600万円ほどかかると、これ県警のほうの話なんですけど。確かにこの一つに600万円もかけるというのは大変なことで、県のほうでも多分年間10数台しか設置できないという状況の中で黒石がつけれるかというとなかなかできないと思います。現にいろんな信号機をつけていただきたいという地区要望を上げているんですが、実際

とおらない。ほぼゼロに近い。よって地区要望から取り下げるといった状況も出ております。私の記憶が間違っていなければ、まず最近では黒石小学校の交差点についてのとアクロスプラザのところについてのと北陽小学校のところについてのがここ二、三年の間ついた信号機ではないかと。これには今の現市長が県会議長の時にかなり御尽力いただいたおかげでついたものだと思っておりますが、こういった中でもなかなか捻出ができない。これは県も同じことだと思うんですけど、黒石も同じことです。安くできるそのカラー舗装、ただカラー舗装でも全面的にカラー舗装するとかなり予算がかかってしまいます。その中でもさっき言った立体舗装的なものを用いてやればかなり安くできるという効果・成果がいろんところで出てますので、先ほど来、雪の中でどうのこうのと、これもその辺を克服できるものもありますので、私も今後研究していきたいし、行政のほうもその辺を研究して、そのようなケースでなんとか考えていただければと思いますので、その辺もしあれば、お答えいただければありがたいと思います。

◎議長（村上啓二） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） 信号機等の要望はしておりますが、関係機関、警察本部のほうになると思いますけれども、それは関係機関と一緒に要望してまいりたいとそのように考えております。また、カラー舗装についても他市の例を参考に実施できないか研究してみたいとそのように思っております。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 以上で、8番大久保朝泰議員の一般質問を終わります。

---

◎議長（村上啓二） 次に、12番山田鉦一議員の登壇を求めます。12番山田鉦一議員。

登壇

◎12番（山田鉦一） おはようございます。黒石市民クラブの山田鉦一です。高樋市長が誕生して、私の初めての一般質問になります。明快な御答弁をお願いし、一般質問に入ります。

最初に認知症の対応についてお尋ねします。

厚生労働省では現在、我が国の65歳以上の高齢者のうち、認知症の人は15%で462万人に上がり、認知症になる可能性がある軽度の認知障害の人は400万人いると推計しており、65歳以上の4人に1人が認知症とその予備軍となる計算で、政府は早急な対応に迫られております。認知症患者の介護は24時間の見守りが必要で、そのため勤めを辞めざるを得なくなり結果として生活貧窮に陥り、また、家族の中でも、親子の間でも、夫婦の間でさえ意見の疎通がとれなくなり、このようなことから肉体的、精神的に介護疲れの果て、介護者が患者の命を絶つという痛ましい現実が全国各地で起きております。この認知症に対する治療で今最も注目されているのがNPO法人の日本心身機能活性療法指導士会の理事長であります、小川眞誠氏が開発した「心身機能活性運動療法」です。この療法は5つから構成されており、療法指導士と患者が1

対1で温熱により体を温めることから始まり、体全体の血行を促進した上で簡単な運動器具を使いながら指や腕の神経を刺激し、さらにはゲートボールとゴルフを組み合わせたゲーゴルと呼ばれる室内ゲームを楽しみながら行うことで、認知症の症状がたった3カ月で劇的な変化を起こして、しかも脳後遺障害などにも効果があることが分かっております。無表情であった顔が表情豊かになった事例や、意欲や身体反応が向上し協調性が生まれるといった事例のほか、料理ができなくなっていたのに数カ月後にはしっかりと味つけの煮物ができるようになったなど、数多くの病状改善例の報告がなされていることから、全国的な広がりを見せ、多くの自治体に取り組んでおり、また検討を始めております。例えば出雲市では市役所、JA、高等学校が役割分担をしながら取り組んでいることから、高齢者の方々には大変喜ばれているとのこと。この療法は日本のみならず、上海、香港、台湾、韓国など海外においても話題を呼び、高い実績からこの療法を取り入れる施設が増加しておりますが、日本国内では心身機能活性運動療法指導士が4,000人ほど活躍している現状の中で、青森県内では指導士数が非常に少なく指導士の育成が急務と考えます。患者本人の立場になって考えてみれば認知症が改善し、本人が元気になった姿で前を向いて生きていけることこそ、本人の幸せな姿ではないでしょうか。患者、家族にとってどれだけの喜びになっていくか計り知れない感がございますが、国の施策として有効性のあるデイサービスがうたわれており、本プログラムの確かさが求められており、市にとりましても財政を圧迫する医療費、介護保険料の軽減を図るだけではなく、短命黒石市返上に大きく寄与するものと考えます。

そこでお尋ねしますが、黒石市の認知症患者は何人おりますか。また、この心身機能活性化運動療法により、脳と心と体が総合的に活性化し認知症を改善し、健全に日常生活を取り戻すことができることから、ぜひとも黒石市でも早急に取り組んでいただくよう、切に切に願うところでありますので、市長さんの前向きな答弁をお願いします。

次に職員の待遇についてお尋ねします。

1点目は給与についてですが、我が国の公務員には、国家公務員約64万1,000人と、地方公務員約276万人がおります。このうち、人事院の給与勧告の対象となったのが「一般職の職員の給与に関する法律」の適用を受ける一般職の国家公務員は約27万5,000人でした。本年の国家公務員給与と民間給与との格差が0.27%、金額にして1,090円で、これを解消するために棒給の改善を行うこととし、平成19年以来7年ぶりに年間給与が増額になりました。これを受け青森県の人事委員会は地方公務員法に定める給与決定の原則により、生活費、国及び他の地方公共団体の職員の給与、民間事業の従事者の給与、その他の事情を考慮し、総合的に判断することとし、調査の結果職員給与が民間給与を1,209円、率にして0.33%下回り、また人事院勧告の内容に準じ、若年層に重点を置いて引き上げ改定など、月例給は7年ぶりボーナスは9年ぶりに引き上

げることになりました。

ところが、名古屋市人事委員会は9月、民間企業と比べて市職員の給与は低いとして、月例給を15年ぶりボーナスを7年ぶりに引き上げるよう勧告しましたが、河村たかし市長は、「民間企業で給与が上がったのは一部で、多くの庶民が生活に苦しむ中、市職員の給与一律アップはありえない」と反発しております。各自治体では、財政難を理由に職員給与を減額することがありますが、この場合でも、人事委員会の勧告に従って恒久的な給与条例を改正した上で、減額幅などを盛り込んだ期限つき特例条例を別に定めることが普通の手法であるとされております。黒石市の場合も財政難を理由に給与改定をしないのではと心配しましたが、人事院及び青森県人事委員会の勧告に準じ、所要の改正をするための議案が提出されましたのでほっとしているところです。これまで前市長が提案し、いまだ続いている黒石市職員の給与減額は、高樋市長に替わった今でも前市長と同じ考えで職員給与減額を続けていくのか。高樋市長は市長に立候補する際に市民に配布した「誇れる故郷・くろいし」のなかに「元気な黒石」という項目がございますが、職員が元気になるいと市は元気になりません。職員が元気になるにはまず給与の減額をとめることで職員に笑顔が戻り、元気な市役所から元気な黒石市が生まれてくると思っておりますが、高樋市長は職員給与の減額をいつまで続けるのかお尋ねします。

2点目は、女性管理職についてお尋ねします。

人事院は6月18日、2013年の公務員白書を国会と内閣に提出しましたが、国家公務員の女性管理職の割合を高め、長時間労働の見直しに取り組むべきであると提言され、また、第3次男女共同参画基本計画において、採用時の女性管理職の割合は2015年に30%とする政府目標を着実に実現するよう求めています。この白書によると、2013年10月時点での女性管理職の割合は全体の3%で、スウェーデンの40%、米国の33%など欧米諸国と大きな差があり、韓国の9%をも下回っている実情がありました。白書はこの理由を、日本では女性が家事や育児に責任を負う意識が強い一方、職場の拘束時間が長いこと仕事と家庭の両立が難しいと分析し、管理職への登用をふやすための業務のスリム化や成果主義の徹底、幹部職員の意識改革を進めるほか基本となる女性職員の育成が急務と指摘しております。これは平成15年に当時の小泉総理を本部長とする男女共同参画社会推進本部で決定され、このため各分野における取り組みを促進することが第2次男女共同参画基本計画の重点事項でした。そして昨年閣議決定された日本再興戦略でも「隗より始めよ」の観点から女性の採用・登用の促進や男女の仕事と子育て等の両立支援について、まずは公務員から率先して取り組むこととし、ことし閣議決定された日本再興戦略にも明記されております。しかし、現実には目標どおり実施していけるかは疑問符がつくところです。なぜならば2013年の女性管理職は、国が3%、都道府県が6.8%、市町村が12.2%ではどう考えても実行不可能と思われるのですが、ちなみに青森県の一般行政職は288人で女

性管理職比率は3.5%となっております。そこで黒石市の女性管理職の取り組みについてはどのような計画の下で実施しようとしているのかお尋ねします。また、現在、市の庁舎における女性管理職の一般行政職のうち女性比率は何%になるのかお知らせ願います。

次に、市役所の組織体系についてお尋ねします。近年、部の数は減っているが課の数は統合、廃止、新設などを含めほぼ同じであると思いますが、このごろの国の法律等の改正による住民サービスの煩雑化によって、部によっては業務内容が増大しているといった部もあると思います。現在の組織体系は行政改革の一環でこのようになったと思いますが、それと同時に財政難もあり、お金がないから新規事業を我慢する、あるいはできないといった中で、これまでしばらく市の新規発想に対する対応というか、いわゆる市の建設的行動が、我慢我慢で停滞していた感じがしております。こういった状況の中で、市長は就任直後の8月の議会において農林商工部を農林分野と商工分野に分けて機動性を発揮できる組織にしたいという意向を示しております。私もこのことは必要と思います。各部長は課長が業務として担当する事業内容を一生懸命勉強し把握して頑張っていると思います。確かにそうですが、今後、建設的感覚で市として有利な事業などの選択を進めて時代の波に乗って復活していくのはなかなか簡単ではないと思います。市長が今後、選挙公約の「元気な黒石」「安心な黒石」「自立した黒石」に向け行政を経営感覚で戦略的な基礎づくりを進めていくには、農林商工部の例だけではなく、各部の担当課を再配分し、新しい部を増設するなどして再編し、組織の機動力をアップする必要があると思います。そこで質問です。10年以上も前ですが市は企画商工部の中に商工関係では商工振興課と観光物産課の2つの課、農林分野には農林課と農村整備課があったのを記憶しておりますが、市長の農林分野と商工分野に分けて機動性を発揮できる組織の構想とはどのようなものかお聞きします。

最後に、専門職員の育成について、市職員の配置のことになりますが、現在の複雑な事務に対応するために、一つの課に行ったら少なくとも5年は持続してもらおうといった、市職員にその仕事の専門的な知識をある程度習得させる体系を組むことはできないものかと思っています。簡単に言えば仕事、業務を熟知した職員を育成するということになるのですが、今まで窓口対応とかはかなり親切になっていると感じているんですが、例えば何かの行政方針の進め方を見ると、市民に対しての職員による説明不足とか、ほかの細やかな事業であっても全部とは言いませんが、中には市民の事を考えて進めているのか一般常識的に考えて疑問に思ったりする部分を感じられます。市場の動向についてもアンテナを張り巡らすような、セールス専門職員も必要かと思います。その辺から、各業界の常識も含めた専門的な知識を有した職員の育成の必要性を感じるのですがどうでしょうか。職員にもいろいろな仕事に従事したいといった考え方もあると思うし、市として各部署を経験してもらい職員として行政マンのプロとして育成する

ことも大事です。あと、職員それぞれの適正的な部分もあると思います。そういうことを考えれば1年、2年で変わることを否定するわけではないですが、でもその次は5年くらい、また特に向いていれば、もちろん本人の意向や意欲また適正的なものも考慮してですが、10年いてもらうとか、そういう感じでの仕組みとか路線というんでしょうか、そういうことができないかなと思うのです。

そこでお尋ねします。市長は経営的な行政運営の基礎づくりを進め、各分野の専門職員を育成する職員配置についてどのように考えるか。また、職員による黒石市のセールスの強化をどのように考えるか、お知らせ願います。

以上で私の一般質問を終わります。前向きな御答弁のほどよろしく願います。ありがとうございました。

(拍手)

降壇

◎議長（村上啓二） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（高樋憲） 山田議員にお答えいたします。私からは、市の行政組織についての農林商工部を農林分野と商工分野に分離することについての市長の考え方について答弁させていただきます。

先ほど来、黒石を元気にするというお話ありました。私自身もこの黒石を元気にする方法といたしましては、やはり、1次産業をしっかりと強いものにしていかなければいけない、それをあわせて商工観光分野をもっと充実させて外貨を稼ぐということにも思いをしなければいけない。そういう考えからですね、農林商工部を農林分野と商工観光分野に分離し、それぞれ特化した施策について、より一層機動性を発揮できる組織にしたいというふうに考えておりました。

しかし、市長に就任しましてですね、各部課長からのレクチャーをいろいろお伺いした結果ですね、課題がもう山積している状況であります。そういう部分で考えましたときに、この農林商工部は、しっかりと位置づけのもとで分離しなければいけないというふうに考えておりますが、その前にですね、まずは黒石の抱えている課題を全て洗い出して、そしてどういう方向に進むべきかということをしっかり決めていくということがまず一つ大事なんではないかと。合わせましてですね、いま国におきましては「まち・ひと・しごと創生本部」いわゆる「地方創生本部」がいま創立されまして、先般、地方創生関連法案が成立したことによりまして、国の動向も視野に入れなければいけない状況になってきております。そのためにも、各分野を横断した総合的な政策・企画立案を推進していくための部署を設置することがまず優先なんではないかなということで、そのことを今検討させている状況であります。

またきのう、工藤俊広議員にもお答えさせていただきましたけども、中長期的な視野に立ち

まして、5年後・10年後の黒石市を活性化させるための施策について検討する「黒石市施策提案プロジェクトチーム」を12月1日づけで立ち上げたところであります。まずは今の現状をしっかりと踏まえた上でのこれからの新しい体制づくりにこれから取り組んでいきたいというふうに考えております。

私からは以上です。その他につきましては、関係部長より答弁させます。

降 壇

◎議長（村上啓二） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） 私からは市職員の待遇について、まず給与の削減はいつまで行うのかということでございます。

市は現在、市民、議会、職員の御協力を得ながら平成27年度決算での全会計黒字化を目指して取り組んでいるところであります。職員の給料削減については、各年度の財政状況を勘案することとなりますので、現段階ではいつまでとは申し上げられる状況にございません。

次に女性職員の管理職について登用率はいくらか、それから女性登用の目標はあるのかということでございますが、平成26年4月1日現在、本庁での主幹以上の管理職職員数は96人で、そのうち女性職員は18人、女性登用率は18.8%になっております。管理職については、男女の区別なく勤務評定等をもとに、個々の能力や資質を考慮して登用しておりますので特に女性登用率等の目標は設定しておりません。しかし、平成26年4月1日現在、全職員、病院職員は除きますが、287人のうち女性職員は93人ございまして、32.4%が女性でございます。近年新採用職員の女性が占める割合が高くなっておりますので、それに伴って将来には管理職の女性登用率も増加していくものと思われまます。

次に、専門職の育成についてお答えいたします。人事異動の対象職員として、新採用でおおむね3年、その他はおおむね5年の在職期間をめぐとしておりますが、技師職や保健師以外の事務職の中にも必要とされ、10年以上一つの部署に在職している職員も数人おります。議員御指摘のとおり、その分野に特化した専門的知識を身につけた職員の育成が大事であることは認識しております。今後は若い時期に色々な経験を積ませ、上司の勤務評定や本人の希望も考慮し職員の適性を見極めた上で、最も適した部署での専門性を高めた職員の育成に、より一層努めてまいりたいと考えております。また、黒石市を発信、セールスできるような職員の教育についてもしっかりと研修なりで教育してまいりたいとそのように考えております。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） 私からは、認知症への対応についてお答えいたします。

まず、市内の認知症の方の人数はどれくらいかということでございますけれども、どの辺から認知症というのかいろいろ考え方はあると思います。まああなた認知症ですかというアンケートも取れないので、大体認知症の方は認知症ですかというところじゃないと、私はちゃんとしてるという人がほとんどなので、これはなかなか実数をつかまえるのは困難だと思います。さっき山田議員がおっしゃったように厚生省では大体高齢者の7人に1人は認知症だろうという発表をしております。市として持っているデータは、介護の認定の申請者については必ず認知症の度合いをはかることになっております。昨年10月からことしの6月までの9カ月間、1,600人ほどの認定の申請者がおりましたけれども、そのうち1,400人ほど、大体八十五、六%が何らかの認知症の症状があるというふうに出ております。この数字というのは大体うちの認定率というのは20%程度なので、大体1万人弱の高齢者人口のうち、1,900人か2,000人弱ぐらいは申請するんですけども、その中の80%ぐらいということで7人に1人ぐらい15%ぐらいは認知症じゃないかというふうに、想像されるというんですかね、そういう想定されるんですかね、そういう人数だとは思いますが。

次に、心身機能活性運動療法ということですけども、今回質問がでて初めて聞いた言葉でした。早速ネットで調べてみましたが、ネットに載っている、確かに効果を見るとすごいなど、みんなこれではみんな治るんでないかなというような効果があります。確かにそういうふうな方もたくさんいらっしゃると思いますね。ただ、この資格そのものがNPO法人である民間の団体の認定資格だということで、市としてその指導員を養成するという予定はございません。ただ、今回山田議員からこういう情報提供があったということについては、市内の介護事業者の方々の集会があった時に御紹介させたいというふうに考えております。以上です。

◎議長（村上啓二） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（村上啓二） 再質問を許します。12番山田鉦一議員。

◎12番（山田鉦一） ありがとうございます。やはりこの認知症ですけども、この市としてもですね町内とかそういうところに出向いてどういうふうにとやったら認知症にならないとか、少しでも市内に認知症をふやさないために、その辺の、市としての研究と言いますか、市民に対してですねやったほうが全体的に医療費とかそういうのも全体的にかからない、短命県も、その辺もよくなるので、なんとかその辺ちょっとその覚えた人たちが出向いて教えれば認知症になりがたいよというふうなものを教えてもらえたらなと、こう思っております。

それから市の給料ですけども、できる限り削減しながら頑張ってる職員の給料を上げてもらいたいなと思っております。また女性の管理職ですけども、この国のそういう動向の中に合わせるように目標を決めながら進めていってもらいたいなとこう思っております。また農林商工分

野でなくても、この前は建設部あたりでも上下水道が別だったりとかってあるので、その辺はもうちょっとこれからは見直しをしながら、確かにやらなければならないことがたくさんあると思いますけども、そういうのを見極めながら進めていってもらいたいなど、こう思っております。

それから、職員のことの育成のことになりますけども、来年の人事異動の際にもそういうことを加味しながら進めてもらいたいなどこう思っておりますので、市長にはよろしくお願いいたします。以上です。

◎議長（村上啓二） 山田議員、提言と受けとめてよろしいですか。

（「いいです、はい」と呼ぶ者あり）

◎議長（村上啓二） 以上で、12番山田鉦一議員の一般質問を終わります。

---

◎議長（村上啓二） 次に、9番大溝雅昭議員の登壇を求めます。9番大溝雅昭議員。

登壇

◎9番（大溝雅昭） 皆さんこんにちは。自民・公明クラブの大溝雅昭です。平成26年最後の一般質問をさせていただきます。

11月22、23の両日、第24回黒石りんごまつりが開催されました。市長もいろいろと出番がありお疲れさまでした。また市職員の皆様もイベントや駐車場の係など御苦労さまでございました。例年は雪や嵐など、必ずどちらかは悪天候になるのですが、ことしは2日間ともまずまずの天候に恵まれました。人出も多く、りんご市会場では売り切れが続出しておりました。私はスポカルイン会場の横町十文字まちそだて会のブースで、黒石まち歩きツアーの紹介や黒石米のPRとして7.2メートルの長いのり巻きづくりの体験などを行っておりました。舞台では宮古からの山口太鼓と民謡・歌謡曲、市内の子供たちから学生、大人までの音楽やダンスなど多彩なパフォーマンスが繰り広げられました。駐車場がすぐいっぱいになってしまうよ、という問題などもありましたが、黒石のイベントとして定着してきており、問題を解決しながら、ますますよいものにしていただきたいと思っております。

さて、私は行政の役割の中で最も重要なものは子供たちに対する教育だと考え、教育の問題を取り上げてきました。次世代を担う子供たちに夢と希望を持たせ、チャレンジする心と体をつくるためにサポートするのは私たち大人の義務であると考えます。今回はその中でも海外に対応する人材育成について取り上げました。日本の学生たちは長引く不況の中で内向きな傾向が強くなり、海外に留学する学生の数が減っているというデータがあります。しかし各大学では少子化の時代の中で、生き残りをかけるために国際人の育成に進んで取り組んでおります。結果として、大学側の考えと学生たちとの考えとの海外留学などに対するギャップができてい

るというのが現状となっております。

まずは、本市において児童生徒や若者の海外に対する取り組みと国際人育成などについての質問であります。

第1は、黒石市の海外派遣等の今までの取り組みについて質問いたします。そして、今後の予定はどうなっているのかお尋ねします。

第2に、国際人育成の支援等について質問いたします。国の外郭団体で行っている国際人育成事業などに参加する若者に市からの支援はできないのでしょうか。例えば、弘前市の例ですが、国際青年研修協会の海外派遣に対する補助金として補助対象経費の実支出額の8割または24万円のいずれか少ない額を補助する事業があります。黒石市でもできないものか質問いたします。

次は、スポーツイベントやスポーツ体験を生かした観光についての質問であります。

健康志向でウォーキング、ランニング、そしてサイクリングなどを興味とする人たちがふえております。色々なところでこういった人たちを対象としたスポーツイベントが行われております。

第1に、黒石の里山で近年行われたスポーツイベントはどのようなものがあるのか質問いたします。

第2に、黒石の里山を利用したスポーツイベントの可能性についてどのように考えているのか。また、スポーツイベントやスポーツ体験を生かした観光の可能性についてどのように考えているのか質問いたします。黒石の里山は自然が豊かで虹の湖もあり、駅伝、トライアスロン、トレイルランニング、サイクリング、マウンテンバイクレースなどの可能性がたくさんあるのではないかと考えるからです。

第3は、スポーツと観光をあわせた具体的な事業として取り上げられているサイクル・ツーリズムについての質問であります。近年、健康志向や環境意識の高まりから、その土地ならではの地形・自然・景色を自転車に乗って楽しむサイクル・ツーリズムが全国で人気を博しており、ことし7月に青森県サイクル・ツーリズム推進協議会が設立されました。この全国的な流れ、青森県の動きについて、どのように情報を捉えているのか質問いたします。そして、豊かな自然と歴史的価値のある建物などが点在している黒石市でも取り組むべきではないかと考えますがいかがでしょうか。考えをお尋ねいたします。

次は、各地区の地区協議会のこれからのあり方についての質問であります。

黒石市と同様に小学校区単位で組織をつくり、まちづくりを推進している自治体が多くあります。11月に自民・公明クラブ8名で行政視察に訪れた、熊本県玉名市、福岡県糸島市も同様に小学校区単位でまちづくりに積極的に取り組んでいる自治体でありました。高樋市長は地区

協議会にもっとまちづくりの役割を果たしてもらいたいと発言しております。

第1に、地区協議会に役割を果たしてもらうためにはどのような方法を考えているのかお尋ねいたします。

第2は、その活動財源などについてであります。地区協議会の役割を高めるためには、組織の見直し、人材育成、そして財源が必要だと考えます。どのような方法を考えているのかお尋ねいたします。

さて、衆議院が解散され、12月2日衆議院選挙が公示されました。14日が投票日であります。師走の真っただ中、まさに衆議院議員選挙が行われておるのであります。問題なのは、若年層の選挙離れであります。高齢化率は右上がりとなっているのに、投票率は反対に右下がりになっている現状があります。若者の一つの傾向として、仲間と一緒に行動したいという傾向があります。一人でもしくは家族で投票に行こうとはしないという現状があるのです。でも、仲間とは住んでいる地域によって投票所が違います。仲間と誘い合ってはなかなか行けないというのが現状なのです。しかし、仲間と誘い合って行く方法はただ一つ、期日前投票があります。ぜひ、午前8時半から午後8時までやっておりますので、若い人たちも仲間と誘い合って期日前投票をしてもらい、政治に参加していただきたいと願うものであります。

それでは、年の瀬を迎えるに当たり、黒石市民1人1人がよい年を迎えますことを願いました。檀上よりの質問を終わります。御清聴ありがとうございました。

(拍手)

降壇

◎議長(村上啓二) 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長(高樋憲) 大溝議員にお答えいたします。私からは、地区協議会のこれからのあり方の中での役割を果たせるためどのような方法を考えているのかということと答弁させていただきます。

本市における地域活動は、1小学校区1公民館をコミュニティーエリアと捉え、黒石ならではの独自のコミュニティー活動を展開してきたことは、他の自治体に誇れる自主的活動であり、その中心となっているのが各地区協議会であります。その地区協議会がさらに活動を活性化し、地域の力を向上させることが、「小さな行政」「黒石市のまちづくり」を推進する上で大変重要なことと考えております。8月11日には、地区協議会会長との意見交換会を行い、どのようなことが地区協議会でできるのか、またそれぞれの地区協議会の課題解決策を提出してもらうようお願いしたところであります。それらの解答をもとにいたしまして、これまで地区協議会と行政が協働の理念のもと連携してきた経緯を踏まえて、さらに前進させ、どのようなものが地区で可能なのかを明確にした上で、今後、各種団体との連携も図りながら、もう一度地区協

議会に出向き意見交換を行うことによって、行政がどのように支援できるのかを検討してまいりたいと考えております。

他につきましては、関係部長より答弁させます。

降 壇

◎議長（村上啓二） 企画財政部長。

◎企画財政部長（後藤善弘） 私からは2点、人材育成についての児童生徒の若者の海外派遣等の取り組み関係で、市の海外派遣等の今までの取り組み、そして今後の予定はということについてお答えをいたします。

まず、これまでの取り組みにつきましては、姉妹都市である大韓民国永川市との交流促進と異文化体験を通じた国際感覚の醸成を目的に、高校生のホームステイ事業を実施してきております。平成19年度と24年度においては、永川市の高校生を黒石市の家庭で受け入れ、平成23年度、25年度は黒石市の高校生を永川市に派遣し、それぞれ夏休み期間において2泊3日のホームステイを実施してございます。また、同じく永川市との交流事業の中では、過去に昭和60年に中学生の卓球チームを相互に派遣し、スポーツ交流を行ったこともございます。

それから、今後の予定といたしましては、高校生のホームステイ事業について黒石市と永川市で派遣受け入れを順番に行ってございますので、次回は黒石が受け入れる番、そういう順番となっております。来年度の交流事業については予算が確定した段階で永川市側と協議することになりますが、永川市の高校生を受け入れホームステイ事業を実施したいと考えてございます。以上です。

◎議長（村上啓二） 教育部長。

◎教育部長（奈良岡和保） 私からは、人材育成についての国際人育成の支援等についてとスポーツイベントや体験を生かした観光について、それから地区協議会のこれからのあり方についてお答えします。

まず、国際人育成の支援等についてですが、公益社団法人国際青少年研修協会が行う海外派遣事業については、ホームステイや英語研修などの体験プログラムを提供しているとのことであります。教育委員会といたしましては、国際理解教育や国際交流を促す一つ的手段として、青少年のグローバルな視点を持った人材の育成は必要であると認識していますので、今後は県や関係機関と連絡・調整を図り情報収集や情報提供に努めるとともに、国際人育成の海外派遣事業に対する助成についても検討してまいります。

次に、スポーツイベントや体験を生かした観光について、これまでの取り組みと現状についてですが、現在把握している山形地区や黒森山を利用したスポーツイベントとしては、6月に開催された「こけし駅伝大会」に240人、「アドベンチャーフェスタ2014」のラウンド1として

バイクとランを組み合わせた競技の「虹の湖デュアスロン春in黒石」に43人、ラウンド2として「黒森マウンテンバイク夏in黒石」に45人、ラウンド3として秋には山を走る「マウンテン黒森トレイルランin黒石」に36人の参加者があったと伺っております。

次に、スポーツイベントや体験を生かした観光の可能性ということで、トライアスロンやマラソンなど可能性があるということでイベント化できないかということですが、市内には恵まれた豊かな自然があり、さまざまなスポーツを実施することが可能と思われます。特殊性がある別名鉄人レースと言われるトライアスロンやマラソンなどは、専門的知識のある方々から競技内容やコース等について情報収集をしてみたいと考えております。

続きまして、地区協議会のあり方について、地区協議会の中にまちづくり委員会という御提案についてお答えいたします。大溝議員御指摘のとおり、地区協議会の活性化のためには、まちづくり委員会の設置というのも一つの方法だと思いますが、地区協議会組織の強化と地域の教育力を高めることが課題であり、地域の活性化を図るため、地区協議会機能を生かしていくことが重要と考えております。教育委員会としましては、これまでもやっているとおり地区協議会及び各種団体の若いリーダーなどを対象に、地域活動の専門家を講師に招くなどして研修会や学習会を開催して、広く人材育成と地域力の向上を図ってまいります。

最後に、地区協議会の活動財源についてですけれども、活動に対する財源に関しましては、県及び関係する機関や企業において、まちづくり活性化事業に対する補助金制度を設けているところがあります。本市での上十川地区振興協議会では、市町村振興会の地域づくりソフト事業や公益財団法人むつ小川原地域・産業振興財団のプロジェクト支援事業の助成金で獅子舞のルーツやハイキングのマップなど地域振興のために活用しております。また、六郷地区振興協議会では、県の公民館機能活性化事業補助の助成を得て幻の県道事業の強化のために活用しております。このような財源の確保は、地区協議会の自主的活動を促す上で重要であることから、各種補助制度や助成金制度の情報収集をするとともに、上手く活用できるよう情報提供してまいります。以上です。

◎議長（村上啓二） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） 私からは、スポーツイベントや体験を生かした観光の可能性についての御質問と、サイクル・ツーリズムに関してお答えいたします。

まず、スポーツイベントに関連する観光の可能性であります。有力な観光コンテンツの一つとして認識しております。イベントの規模や参加者の状況にもよりますが、市外からの参加者に観光地や宿泊施設等の情報提供を行うことは観光PRとして極めて有効な手段であります。ただ、民間団体の主催によるスポーツイベントにつきましては、まずその情報収集が極めて重要であると考えておりますので、今後、受け入れ態勢等につながる方策について検討してまい

りたいと考えます。

次に、サイクル・ツーリズムでございますが、サイクル・ツーリズムは自転車を移動手段として、地形・自然・景色を楽しむことを目的とし、健康志向・環境意識の高まりから近年広まりつつある新しい観光のスタイルであります。青森県サイクル・ツーリズム推進協議会は、平成28年春のいわゆる北海道新幹線新青森新函館北斗駅開業を念頭に、その前年から勉強会を立ち上げていろんな勉強会をしてきたその結果、議員御質問のとおり平成26年7月に観光資源の豊富な県内を周遊・滞在するサイクル・ツーリズムを確立し、観光客の誘致と地域活性化を目指すことを目的として設立されました。学識経験者、自転車関係団体、交通事業者、観光関係団体等、26の個人と団体からなる幹事会と、金融機関及び行政関係者からなるオブザーバーによって構成され、今年度は、自転車観光における受入環境整備・誘客促進・情報発信・普及啓発を取り組むその戦略の事業展開をいろいろ計画するというふうになっております。本市においては、重要文化財の指定を受けた高橋家ほか中心市街地の名所・庭園等、あるいは黒石温泉郷・中野もみじ山を結ぶコース等、市外からの観光客も誘致できる魅力あるサイクリングコースになる可能性を持っていることから、今後、調査・研究を進めてまいりたいと考えております。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 指導課長。

◎教育委員会理事兼指導課長兼教育研究所長（宮崎晃一） 私からは、児童生徒や若者の海外派遣等のこれまでの取り組みについてということと、今後の予定は、についてお答えいたします。

黒石市とオーストラリア・メルボルンにあるチズム校との中学生、高校生の相互交流は、平成6年度から平成17年度までの12年間実施されておりました。それ以降は、チズム校の意向を踏まえながら、平成20年度までは派遣団の受け入れ事業を行ってきました。平成21年度以降は、新型インフルエンザの流行や東日本大震災、チズム校側の予算上の都合等により実施されておられません。教育委員会といたしましては、国際社会に貢献できるような人材育成のために国際理解教育の推進に努めるとともに、海外派遣団の受け入れ事業につきましては、交流相手であるチズム校の意向、あるいは市の財政状況等を踏まえながら、今後検討してまいりたいと考えております。以上です。

◎議長（村上啓二） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（村上啓二） 再質問を許します。9番大溝雅昭議員。

◎9番（大溝雅昭） 御答弁ありがとうございました。それでは順番にいきたいと思います。

まずは、海外派遣の取り組みについてですけども、今韓国の永川市とオーストラリアのチズム校との交流について今までの取り組み等の説明がありました。やはりこうオーストラリアの

チズム校との交流がここ数年途切れているというのは非常に残念というかもったいないというのが私の気持ちです。この流れを見るとこのままなくなってしまうような感じまでしているところがございます。永川と違って英語圏との交流、その中でやっぱり新しい交流先を見つけることは非常に難しいことだと思いますので、やはりこれについて今後どのようにお考えなのか、なんとか先に進めていく考えはあるのかお尋ねします。

◎議長（村上啓二） 指導課長。

◎教育委員会理事兼指導課長兼教育研究所長（宮崎晃一） ちょっと話せば長くなるんですが、歴史をひもといてお話しすると、そもそもの交流のきっかけといいますのが平成5年にさかのぼってですね現在英語、外国語指導助手派遣されています2名。その当時の個人名は控えるとしてALTの方がたまたまメルボルン出身、オーストラリアのメルボルン出身の方で橋渡しをしていただいたというのがそもそものきっかけで、ずっと行ったり来たり交流が行われてきました。

単刀直入にお話しすると、市の財政難というのがキーワード一つ、それからもう一つはこれは平成十七、八年度の話ですけれども、国際交流にかかる高額な予算、まあ大体行くとすれば250万円から300万円かかっていたようです。派遣していった人数がですね、中高生それから指導者も含めて約18名ですね、派遣、それくらいかかっていました。そして高額な予算が一部の生徒だけに活用されるのがどうかということが議論になったようです。そういうようなやり取りがあってその後、行くのがちょっと苦しいので、苦しいのでというのは表現の仕方が適切かどうかわかりませんが、受け入れということに関してはどうぞいらっしゃいということで何年か18年度から来るものは拒まずというような形で続けられてきたようです。

今後の結論ですね、今後の考えは先ほども申し上げましたとおりそういう相手の、チズム校でもやはり予算の都合により中止したいという申し出があったようです。向こうさんからも。ですからこちらの状況踏まえながら検討させていただきたいと、前向きとまではいきませんが、部長笑ってますけれども、そういう苦しい答弁になりますよろしいでしょうか。私からは以上です。

◎議長（村上啓二） 9番大溝雅昭議員。

◎9番（大溝雅昭） 来るものは拒まずというスタイルが積極的ではないと私も考えますので、その辺、お金がないのは重々承知ですけれども、行くだけが交流ではない部分もありますし、何とかその辺、ぜひとも何らかの形で復活できればいいなと思うものでございます。これはこれ以上質問しても先に進まないと思いますので。

永川との交流は逆に近年スタートして続けていると、これは本当に素晴らしいことだと思います。ぜひとも、先ほどの質問で来年のことしかなかったんですけども、これからについて来

年以降についても逆にここで聞いておいた方がよいかなということですので、来年以降のことについても少しお考えをお聞きします。

◎議長（村上啓二） 企画財政部長。

◎企画財政部長（後藤善弘） きのうの一般質問でもお答えをしておりますとおりに事業の成果がですね、非常に大きいものが出ております。全国大会でスピーチで優勝されたお二人だけではないんですよ。ほかにもですねその前年に準優勝に入っているとかですね。表に出てない方、それから人間形成の上では非常の意義あることだというふうに思っております。保護者の方々もですねそのように感じられている方がいっぱいおられます。ですので報告会にも議員の皆様方もですね強い関心を持っていただいて、相当な議員の皆さんがおいでになったことも私も出席して覚えております。そういういろんな面で意義が波及しているものがありますので、これはやはりぜひ継続していくべきだというふうに考えてございます。以上です。

◎議長（村上啓二） 9番大溝雅昭議員。

◎9番（大溝雅昭） 来年以降も続けていきたいという思いでありありがとうございます。ただちょっと残念だったことはですね、いろいろな都合でことしなかったことで、子供たちにとってはですね1年ずれてですね結果として行きたくても行けなかった子供たちが出たのではないかなとちょっと心配しているところがあります。なぜならば高校生だとかいう事業に参加できるのはやはり1年生2年生までが一般的ですので、公平な機会を与えるためにもですね、ぜひとも途切れなくやっていただければという、これはお願いになりますので、これからもまた事業にも期待いたします。

続きましてですね、国際人育成事業の市からの支援についてでありますけれども、11月28日に黒石高校で明治大学の宇野教授を迎えてグローバル人材育成講演会が開かれました。一、二年生359人に、海外留学をより身近に捉え留学や国際的職業への関心を高め視野を広げるのが目的というです。これは県の事業ですが、関心を高めるだけではなく、可能性を広げてやらなければ意味がないかと考えます。また、黒石市の優秀な子供たちの多くは弘前市の高校に通っているのが現実です。しかし、同じ学校に通っていても弘前市に住んでいなければ弘前市の補助は受けることはできません。情報もないのが現状です。ですから新たに市単独で海外派遣の事業を立ち上げるには苦労と時間とお金がかかりますので、先ほど申しましたように、国の外郭団体等の事業に参加する機会を広げていただきたいということで、先ほどもその重要性は認めてるということでしたが、是非とも取り組んでいただきたいということで、もう一度お考えを伺います。

◎議長（村上啓二） 教育部長。

◎教育部長（奈良岡和保） 先ほどもお答えしたとおり、この国際青少年研究協会の海外派遣研

修事業の意義とは大変重要だと思っております。できれば1人でも2人でも多く参加させてあげたいという気持ちは重々ありますので、調査研究してまいりたいと思っております。以上です。

◎議長（村上啓二） 9番大溝雅昭議員。

◎9番（大溝雅昭） ありがとうございます。

私事ですけども、私もですね第3回青森県青年の船に補助もいただきながら参加いたしました。その時は、県や市の職員の皆様に本当にお世話になりました。それをきっかけに10カ国以上の国々に私は行っております。アジア、アメリカ、ヨーロッパ。カンボジアでは原理共産主義を目指して大量虐殺を行ったポルポト政権の傷跡が残っている中、お寺に泊まってですねお寺の敷地のある小学校の庭づくり、あと教室の机の修理、そして日本から絵本を持って行ってその絵本にカンボジア語の訳を張りつけるというそういうボランティアに参加してまいりました。黒石の児童生徒が若い時から海外に興味を持つこと、交流することはとても重要ですので、ある程度前向きな御答弁いただきましたので、これは要望ですけども積極的に取り組んでいただきたいと思います。

続けて、スポーツイベントやスポーツ経験を生かした観光についてであります。現在黒石の先ほど説明のありましたスポーツイベントですね、里山で行われているスポーツイベントは、愛好者での少数の開催にとどまっているというのが現状だということであります。でもその中でも市外の参加者や県外の参加者がいるというふう聞いております。いくつかあるスポーツイベントの情報を逆に集約し取り入れ、外に発信するために連携して市のほうでPRするとか、市のカレンダーなどに取り入れてあげるとかですね、そういうことをして育てていくことが可能だと思いますが、いかがでしょうか。その支援の考えをお聞きいたします。

◎議長（村上啓二） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） 議員御提言のとおりスポーツ運営、先ほど申しましたが自主団体からの情報提供がまず重要で、民間で運営するスポーツイベントのことについてですが、これらの連携体制の構築についてまず研究課題としたいと思います。ただ、こちら側の情報発信としては、いずれにしてもネット社会の今日でありますので、スポーツイベント開催にいつでも対応できるよう季節等時宜を得た観光情報の発信に常に努めてまいりたいと考えております。以上です。

◎議長（村上啓二） 9番大溝雅昭議員。

◎9番（大溝雅昭） 私ことしアップルマラソンに参加してまいりました。距離は別といたしましてですけども。その時にですね参加者に対する宿泊のあっせん、そして荷物の保管場所の手配、リンゴやドリンクなどのプレゼント、あとは食事のブース、あと終わった後に無料で温泉

に入れるなどいろんなサービス、ホスピタリティが充実しており、スポーツイベント、市民のイベントを超えて本当に愛好者が全国から集まってこれる観光にも大きくつながっているイベントになっているなということを感じております。黒石の里山、特に山形地区ですけれども、自然と温泉、それにプラスしてやはりスポーツゾーンとして観光の魅力をふやしていけば、いわゆる紅葉の秋以外でもですね大きな観光の目玉になると考えますし、旅館、民宿、客舎の協力も十分可能だと思います。スポーツゾーンとしてなんとかこう山形地区が広がっていけばよいのかなというふうに思いますので、協力をお願いいたします。

それでは、サイクル・ツーリズムについて質問いたします。観光の方法としてサイクル・ツーリズムがブームになっているというのが現状です。たとえばNHKの火野正平の「日本縦断 ころろ旅」ですね、あれも2011年にスタートして、まさか現在4年目の秋まで続くとは私も思っていませんでしたが、本当にロングランになり青森県にも3回も来ております。また、ヨーロッパではサイクル・ツーリズムと自転車競技はセットとして長い歴史があり、文化となっております。有名なツール・ド・フランスは1903年に開催され、ことしは101回目の開催となっております。

八甲田山を控え、また、十和田湖の玄関でもある黒石の里山の地形を生かし、歴史や自然を満喫できるコースがいくつかつくれると考えます。青森県では、青森県の代表的なコースをいくつかつくり、東京で開かれた世界的なサイクリングフェアで県のブースを設けてそこでコースを宣伝しておりました。ですから黒石市でも県と連携したり、また周辺の市町村と連携して、ぜひともサイクル・ツーリズムを生かした観光に取り組むことを要望いたしますが、もう一度考えをお聞きします。

◎議長（村上啓二） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） まず、サイクル・ツーリズム、先ほど申しました協議会全体の課題としては、まず、宅配業者等と連携した自転車の受け取りサービスの構築とかですね、あとももちろんサイクリングロードの選定、あとはステーション、いわゆる自転車の、道の駅とかそういったところと確保できるようなステーションの選定とかいろんな課題が大きいとして、これからいろんな研究していくこととしているようです。当市の場合も道路の安全性の確保、案内表示板の受け入れ態勢と設定と受け入れ環境の整備、あと宿泊や観光施設の選定と効果的な情報発信、まだまだ課題はたくさんございますので、検証すべき事項がたくさんある中でどういったことが可能性があるかを探っていきたいと考えております。ただ、中野もみじ山にはこういったツーリスト、あるいはオートバイで来た方たちへの簡易的な宿泊施設もできましたので、いろんな対応が今後できると少しは考えております。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 9番大溝雅昭議員。

◎9番（大溝雅昭） あと客舎等もですね、逆にスポーツイベントでは逆にもっと使ってもらえそうな気がしますので、ぜひとも乗りおくれれないように情報を持って取り組んでいただければと思います。

最後に、地区協議会のこれからのあり方についてのことについてですが、せっかく研修に行きましたので、研修のことをもう少し話をしますとですね、熊本県玉名市では…

（「手短に」と呼ぶ者あり）

◎9番（大溝雅昭） 手短にはい。

同じように住民主体の地域づくりを行いまして、まず初年度にですね「まちづくり計画」を策定させる、50万円を上限として補助金を出して。そしてその次の3年間で「まちづくり事業」の助成金として、これハード事業になるんですけども、3年間で500万円を助成すると。そのほかにそれと連動して各事業、これはソフト事業ということになりますけど「まちづくり活動」の助成金として5分の4、自己負担はあるんですけども30万円を限度として1地域3つの事業までということ助成してやっております。糸島市の話もありますけども議長に言われたのでそれは削除しますが、特徴はですね、自主的な活動を行うために先ほど答弁にもありましたけども、まちづくり委員会などを設置して地域で長期的な計画をまず立てる。そしてそれに基づいた事業を行い、市はそれに対して結構な補助金を出しているというのが特徴であります。つまり、人・物・金をつぎ込まなければですね、なかなか新しい事業はできないのが基本的な、何の事業でもあるんですけども基本的な考えだということで、人材・資源・資金がベースには必要だということです。ですから、市民との共働、共に働くの共働ですが、これが必要でありますけども地区協議会にこの人・物・金ですね、この3つの要素をどのように投入していくのかもう一度考えがあればお聞きしたいと思います。

◎議長（村上啓二） 教育部長。

◎教育部長（奈良岡和保） 御指摘のとおり長期計画というのは、大変大事でございます。ただし黒石の場合は、市内10地区に1小学校区にコミュニティーエリアがありまして、独自のコミュニティー活動を築いてきたという形があります。それも住民が主体的につくり上げた自主的な地域活動という形で地区協議会が主体となって活動しておりますので、人・物はずぎ込んでおります。金はないけど皆さんそれでも自主的にやられている。そこでどういう形が、さらに支援していけるのか、あるいは地区協議会としてどういうものができるのか、先ほど市長も申し上げましたとおり、再度地区と協議しながら進めてまいりたいと思います。以上です。

◎議長（村上啓二） 9番大溝雅昭議員。

◎9番（大溝雅昭） 苦しい状況もあるのはわかりますけれども、やはり今回の視察で黒石市に

取り上げるべきだと思ったのはですね、やはり各団体に若者を入れてですね、新しい組織、既存の組織とは別にやはり計画をつくるためには新しい組織をつくっていると。そして地域の特徴を生かし、またその中に入っている問題点も含めて長期計画をつくっているということ。また、人材として市の職員を地域のサポート役として数名張りつけている。糸島市では3名から8名を市から派遣して一緒に考えて事業してもらおうということをやっております。黒石市はかつて地域コミュニティーの先進地でありました。しかしですね、やはり財政難もあってですねちょっと時代から逆に取り残されているのかなというような反省する面もあるかと思います。ですから、地区協議会の組織の見直し、その中で若者たちの協力、あと市の職員の協力、そして最低限の予算の裏づけがなければやはり事業はできませんので、その辺の確保等について、地区協議会を生かしたまちづくりはこれからだと思いますのでぜひともその3つを念頭におきながら進めていっていただきたい思います。期待しているという面も含めましてですね、そういうまちづくりが進んでいけばいいなというふうに思いますので、これで質問は終わります。ありがとうございました。

◎議長（村上啓二） 要望でしょ。

（「はい」と呼ぶ者あり）

◎議長（村上啓二） 以上で、9番大溝雅昭議員の一般質問を終わります。

---

◎議長（村上啓二） 昼食のため、暫時休憩いたします。

午前11時54分 休 憩

---

午後 1時03分 開 議

◎副議長（北山一衛） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、5番工藤禎子議員の登壇を求めます。5番工藤禎子議員。

登 壇

◎5番（工藤禎子） 日本共産党の工藤禎子でございます。14日投票で総選挙が戦われている真っ最中であります。市民にも地方自治体にもかかわる大事な選挙です。アベノミクスは、大企業応援で内部留保は285兆円まで膨れ上がりましたが、多くの国民は豊かさなど実感するどころか貧富の格差が拡大されたといわれています。だから、消費税10%を先送りせざるを得なかったが、3年後は景気がどうであれ消費税を10%にすると安倍首相は断言しています。つまり、増税宣言であります。また、集团的自衛権の行使は戦争する国づくりではなく、憲法9条を生かした平和外交を進めることこそ必要です。原発の問題でもすでに1年2カ月稼働原発はゼロです。この間の国民の省エネ努力は原発13基分に相当すると言われ、原発なしでも立派にやっ

ていけることが証明されています。「政治とカネ」の問題、地域も農業も破壊するTPP交渉参加など選挙を考える争点はたくさんあります。2年間の安倍政権をどう見るかが問われる選挙となるでしょう。それでは、一般質問に入ります。

通告の第1は、健康づくりと食育事業の取り組みについて質問いたします。25年4月、厚生労働省健康局は特定健診・特定保健指導を「健康日本21」の策定と位置づけて取り組んでいるところです。保健事業でPDCAサイクルでデータ分析をして計画、課題、目標の設定、実施、評価、改善として取り組むことを国が示していますが、お聞きする第1点目は、特定健診・特定保健指導の実施率の向上のためのデータ分析についての取り組みはどのように準備されているのかお聞きいたします。

2点目は、未受診者への対策について、どのような取り組みをしているのかお聞かせ願います。

3点目は、食育推進の現状と計画・事業についてお聞きいたします。黒石市も食育推進計画をたて、施策を展開しているところですが、食育計画では、一、妊娠期から始まり、乳幼児期、学童期・思春期、成人期、老人期と5つの節目を設けて取り組んでいます。現状と計画をお知らせ願います。また、地産地消の推進も掲げていますが、とりわけ自校方式で給食を実施している3校では、黒石の食材を取り入れているのかどうかお尋ねいたします。

質問の第2は、黒石病院の現状と今後についてお尋ねいたします。

1点目は、黒石病院の医師体制についてであります。小児科は現在常勤医師1名と嘱託医師1名であります。今年度で常勤医師は退職するということです。常勤医師がいなければ救急医療や入院にも対応できません。脳神経外科も常勤医師が2名から、ことし1名となりました。医師の充足率が極めて低い状況になっています。医師確保に向けての対策と今後の展望はどうなっているのかお聞きいたします。

2点目は、各診療科の現状についてお聞きします。脳神経外科は2人体制であった25年度でも前年度より延べ入院患者数で2,283人の減、医療費で入院は約3,000万円の減収となりました。今年度は1人体制ですから入院平均20名、2人体制の時は25年度で平均30名。これから見ると物理的に1人体制では、入院を診る患者数が限られてきます。診療や手術への患者、そして患者の家族の不安が募るばかりです。対策を示していただきたいと思いますがお聞きいたします。

3点目は、津軽地域保健医療圏における自治体病院機能再編成について、前回に引き続き質問いたします。推進協議会に設けられた2つの専門部会は、要綱が定められた所管事項について協議・検討を行っています。総務部会は3回開かれ、医療機能部会は2回開催されています。黒石病院がどのように再編されていくのかお知らせ願いたいと思います。

質問の第3は、26年度産米概算金の大幅下落についてお聞きします。

米価の暴落はT P Pとも深くかかわっています。なぜならT P Pに参加すれば米価が暴落するのは明らかだからです。しかし、安倍政権は打撃を受けることを避けるために米余りと市場原理を口実にしています。これまで政府は米の需給の安定のため一定の役割を果たしてきましたが、安倍政権は根本的なところでその責任を放棄しました。つまり意図的に農業政策を切り捨ててきたということです。当然のごとく米価暴落などで農家は減収になります。融資を受けないと年を越せない状況にもなっていると声が聞かれます。来年も米作りを続けるために、国や県の動向もありますが、市の支援策をどのように検討しているのかお伺いします。以上で、壇上からの一般質問を終わります。

(拍手)

降壇

◎副議長（北山一衛） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（高橋憲） 工藤禎子議員にお答えいたします。私からは、黒石病院の現状と今後についての中の津軽地域保健医療圏における自治体病院機能再編についてお答えいたします。

津軽地域保健医療圏における自治体病院機能再編成協議会の検討状況につきましては、第3回黒石市議会の一般質問で、工藤禎子議員に申し上げましたとおり、再編協議は始まったばかりであり、現段階では議員の皆様方に説明するまで至っておりません。今後の黒石病院のあり方や中核病院の診療機能や病床規模につきましては、平成27年度以降に青森県が策定することとされており、地域医療構想の基本的な考え方との整合性を保ちつつ、再編成協議会の医療機能部会で検討されるものと認識いたしております。また、今回の再編協議は、圏域の自治体病院が等しく抱えておる医師不足という大きな課題に対応し、限られた医療資源を効率的に活用するための取り組みであります。黒石病院が現在、診療科、診療機能が維持できるよう要望するのはもちろんであります。再編協議の結果といたしまして津軽地域保健医療圏の圏域の住民が最大の利益を享受できるよう、再編成協議会において主張していきたいというふうに考えております。いずれにいたしましても、ある程度形が見えた段階で議員の皆様方に説明させていただきますので、御理解をお願いいたします。

私からは以上です。その他につきましては担当部長より答弁させます。

◎副議長（北山一衛） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） 私からは、健康づくりと食育事業の取り組みについてをお答えいたします。

まず、特定健診・特定保健指導後のデータ分析についてでありますけれども、本年7月から国民健康保険団体連合会で国保のデータベースシステムを導入し稼働させました。それによって、これまでそういうデータというのがなかったんですけども、そのデータを市町村の国保の

ほうに公開しておりますので、それを活用しながら効率的な保険事業を実施するためのデータヘルス計画を作成して、実施率の向上に努めてまいりたいと考えております。

次に、未受診者への対策ですけれども、市の広報紙や申し込みのない方に対して、圧着のハガキで受診の勧奨をしております。また集団健診の時に市の指定のごみ袋を進呈して積極的に受診するようPRしております。また今年度からは専門の事業者の方に電話での受診勧奨を委託し、勧奨を行っております。

次に、食育の推進についてであります。市では、「健康くろいし21」第2次計画に基づき、肥満予防対策として成人はもとより、妊娠時から乳幼児期、学童児期まで各ライフステージに応じて、栄養バランスのとれた食事の推進と規則正しい食生活の推進のために、窓口指導や健診・出前講座を活用し食育を実施しております。平成18年度から市内小学校4年生を対象に、全部の小学校ですね、を対象に食育授業を実施しております。まだ年1回ですけれども教育委員会のほうとも協議しながら、できるだけ回数をふやしていきたいというふうに思っております。また、妊婦さんに対しては母子手帳交付時に窓口指導を実施し、乳幼児に対しては健診時に栄養士を2人に増員して配置して親に対する食事指導の強化に取り組んでおります。正しい生活習慣と食生活は小さいころからの積み重ねで形成されることから、今後とも関係機関の協力を得ながら食育事業に取り組んでまいりたいというふうに考えております。以上でございます。

◎副議長（北山一衛） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） 私からは、食育事業の取り組みに関連して学校給食での地元農産物の使用状況とそれから26年産米概算金の大幅下落に関しての市の支援策をどう考えているのかという2点についてお答えいたします。

まず、学校給食での市の食材の使用状況でございますが、青森県が実施している「学校給食における地元・県産食材使用状況調査」によりますと、当市での学校給食実施校である追子野木・牡丹平・六郷小学校の3校においては、リンゴが98%、卵が86%、米が75%の使用率で、県産米も含めると100%となっております。

次に、概算金の下落に伴う市の支援策でございますが、これは工藤和行議員にもお答えしたとおり、稲作農家の生産意欲減退とならないよう、先行して実施した他市町村の事例も参考にしながら、年度内に種子購入費、ナラシ対策積立金あるいは改良区負担金の一部助成等、あらゆる角度から検討しているところでございます。以上です。

◎副議長（北山一衛） 病院事務局長。

◎黒石病院事務局長（沖野俊一） 私のほうからは、黒石病院の現状と今後についての医師体制についてと各診療科の現状について、この2点について御答弁申し上げます。

まず、医師体制についてですが、脳神経外科の医師につきましては、平成26年4月1日以降、これまで2名だった常勤医師が1名体制となり、1名の減員を生じております。また、退職を申し出ている小児科医師につきましては、今後も慰留に努めるとともに、弘前大学医学部や青森県とも協議を続けるほか、医師募集サイトへの求人広告を行うなど、あらゆる方策を講じてまいります。医師の確保は地域医療の根幹をなすものであり、これまでも特に意を用いてきたところですが、脳神経外科の減員や退職医師の補充を含め、今後も弘前大学医学部の御支援を賜りながら、必要に応じ全国に求人を行うなど、常勤医師の確保に努めてまいります。

次に、各診療科の現状についてであります。脳神経外科の常勤医師が1名減少したことにより、今年度上半期の入院患者数は前年同期と比較して約7割で推移しておりますが、診療、手術ともに弘前大学医学部から全面的な御支援をいただき、減員の影響を最小限に抑えることができているものと考えております。診療機能の維持、向上につきましては、繰り返しの答弁となりますけれども、常勤医師の確保が重要であると考えており、医師確保が困難な中でも弘前大学医学部からの非常勤医師の派遣により診療機能は維持してまいりたいと考えております。以上です。

◎副議長（北山一衛） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎副議長（北山一衛） 再質問を許します。5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） 3番目の米の暴落のところからお聞きしたいと思います。今のところ種子の購入費助成900万円ぐらいかかるというふうにいわれていますが、その積算内容を詳しくお知らせ願いたいと思います。

◎副議長（北山一衛） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） これはきのう、工藤和行議員にもお答えしたとおり、購入した食用米の種子を対象として10アール当たり4.5キログラム換算で購入金額の2分の1を助成すると大体900円程度になりますので、総額で900万円ぐらいと想定しております。以上です。

◎副議長（北山一衛） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） 要するに何町歩対象なんですかということになりますが、これからいくと1,000町歩くらいというふうになるんですね。その辺も含めてちょっとお聞きしたかったんですが、900万円というのを聞いているからそれはいいとして、次に市内の農家の今の減収額は幾らと試算しているのか。うち生産調整している農家の減収は幾らか、試算ですからお願いいたします。

◎副議長（北山一衛） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） 黒石市で水稻農家全体の作付面積はおよそ1,461ヘクタールとなります。このうち、経営所得安定対策に加入している方たちの作付面積は992ヘクタール。単純にです、あくまで試算ですので、概算金の減額だけで試算しますと黒石全体で約3億7,000万円。それから経営所得安定対策に加入している農家だけの概算金の下落だけによる単純試算ですと3億2,000万円と見込んでおります。以上です。

◎副議長（北山一衛） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） そうすると対象の稲作農家は幾らでそのうち生産調整している人が該当ということですから、何人になるのかをお願いします。

◎副議長（北山一衛） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） これもきのう、工藤和行議員にお答えしたとおり、これは団体法人を1と見なして、まあ5つの団体法人があるわけですけども経営所得安定対策に加入している数は全部で872団体でございます。以上です。

◎副議長（北山一衛） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） 稲作農家全体はわかりますでしょうか。

◎副議長（北山一衛） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） 稲作農家全体では、本当に小さい作付農家も含めて全体で1,469戸。これも先ほど申しました団体法人を含めての数でございます。

◎副議長（北山一衛） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） なぜ聞いているかという、確かに減反に協力している人が対象ということになるわけなんでしょうけれども、減収になるというのは稲作農家は全部同じなので、できれば全ての稲作農家を黒石では対象として、そういう助成事業をしていただきたいと思うんですがどうでしょうか。

◎副議長（北山一衛） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） 全ての稲作農家が出荷しているわけではございません。あの飯米だけに供しているものも全て含めまして1,469戸でございます。したがって、今のところあくまで生産調整に協力していただいて、つくって、それでもさらに減収したという農家を今のところ対象として検討しております。以上でございます。

◎副議長（北山一衛） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） 早くにつがる市は支援策を打ち出したということで、種子の購入はもちろんですけども、改良区の負担金ナラシ加入助成あるいは署名手数料の免除まで出して、しかも2年間、26年と27年ということなんです。少しナラシ云々という話しもしましたけども、そういう点では支援策をもうちょっと広げる検討をしていただきたいと。例えば秋田県の仙北市

は、1俵あたり二、三百円だと思ったんですけども、行政がね、補填をするということも打ち出してありますけども、それらも含めて支援策を広げる検討はどのようになっているんでしょうか。

◎副議長（北山一衛） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） これは、先ほど答弁しましたとおりあらゆる角度から検討しているということでございます。

◎副議長（北山一衛） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） 国や県の動向もありますというようにきのうから答弁していますけれども、今考えられる県や国の支援策はどのようなものかお知らせ願いたいと思います。

◎副議長（北山一衛） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） このことにつきましても、きのう市長が答弁したとおり青森県はJ Aグループ青森が農家に融資する形式に対し、市町村の負担を求めない形で利子補給を行うという緊急対策を補正予算に計上したと伺っております。以上です。

◎副議長（北山一衛） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） 例えば県のですね、借入れの返済猶予なども検討されているのかお願いします。

◎副議長（北山一衛） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） これは県の施策でございますのでそこまでは承知しておりません。

◎副議長（北山一衛） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） それでは次に入ります。次は2番目の黒石病院絡みの問題です。

医師の充足率なんですけれども、これは非常に基準値に即した充足率かもしれませんが、弘前市立病院が25年度ですが89.2%、大鰐が80%、板柳の中央病院が57.1%、黒石病院が49.0%というふうになっているんです。それで結局大鰐とか弘前市民は、それなりに医師体制があるわけですから、そういう意味ではもっと大学病院にも強く訴えて医師全体の調整もできるのではないかなというふうに感じましたがどのように認識しておられるでしょうか。

◎副議長（北山一衛） 病院事務局長。

◎黒石病院事務局長（沖野俊一） ただいま工藤禎子議員がおっしゃった医師の充足率、黒石病院49%ということですけども、その49%というのは施設、要するに病院を運営していく上で黒石病院が希望する医師の数ということであります。それで実際の患者数をもとにした医療法上の医師の充足率につきましては、100%は越えております。それで大学の方への医師派遣につきましても引き続き要望してまいりますけども、いかんせん大学のほうでもなかなか医師不

足という現状もありますので、実現には至っておりませんが引き続き要望はしてまいります。以上です。

◎副議長（北山一衛） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） そうはいつでも医師不足は現実なわけで、救急輪番でも弘前の市立病院よりは上回る実績かほぼ横並びですけれども、黒石病院は頑張っているんです。救急部門というのはそんなに利益がないわけで、この間、ちょっと病院に行きましたら午前中の部が2時、3時までかかるというぐらいお昼も食べないで先生方もよく頑張っておられるというふうに思います。同時に医者さんが倒られたらどうするんだろうというふうに危惧するぐらいの状況なので、何としても医師の確保というのは、弘大頼みが多いにしろ、全国規模に展開して募集をかけてはどうかというふうに思いますがどうでしょうか。

◎副議長（北山一衛） 病院事務局長。

◎黒石病院事務局長（沖野俊一） 医師不足の関係でございますけれども、黒石病院は議員も御承知のとおり今まで弘前大学医学部からの医師派遣で病院を保ってまいりました。今後も弘前大学医学部からの医師派遣に頼らざるを得ないという状況は今後も変わらないと考えており、例え外部から医師を連れてくるにいたしましても弘前大学医学部との協議は必要だと考えております。そのためにも良好な関係の継続は重要だと考えており、必要に応じて全国に向けて募集をしてまいりたいとそういうふうにも考えております。以上です。

◎副議長（北山一衛） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） 次は診療科の現状なんですけれども、先ほど言ったように脳外が1人体制になると確かに手術の時は応援に来てもらいますが、入院した場合に2人いたお医者さんの時のようには入院患者に対応できないというのは明らかですから、特化した部門として本当に役割を果たすために何としても2人体制で応えられる脳外科になってほしいというふうに思うんですけれどもその辺どうでしょうか。

◎副議長（北山一衛） 病院事務局長。

◎黒石病院事務局長（沖野俊一） 脳外科の関係でございますけれども、工藤禎子議員今脳外科に特化したということを申し上げましたけれども、黒石病院はあくまでも総合病院でありまして、脳外科の専門に行うという病院ではありませんので、そこはちょっと御理解願いたいと。それでその脳外科の医師が減ったことにつきましても、この津軽地域で脳外科の手術をできる病院というのは大学病院とあと黒石病院だけであります。しかも黒石病院には県内でただ一つというガンマナイフというのも設置しております。そういう意味ではこれからも脳疾患に対応する脳外科の医師の充足というのは大変必要だと考えておりますので、これからも大学のほうに要望はしてまいりたいと考えております。以上です。

◎副議長（北山一衛） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） 例えば非常勤とか嘱託は、外来を守りたいということで確保しても、小児科の常勤がいないと入院が無理なんですよね。入院は受けられないという形になるので「小児科をなくさないで」、「産科をなくさないで」ということの要望も非常に高いわけなんです。住民アンケートをとっている中で黒石病院のこともちょっとアンケートに入れてるんですけども、やっぱり今までどおりの診療をしてほしいというのがもう9割方ですね。やっぱり出産の病院がなくなるっていうことは、産気づいた時に遠いほうに行く。そうすると母体ともどうなるかというような、母子ともにね、そういうような危険もはらんでいるということもあります。命を育てる責任を何とか持ってほしいと、保ってほしいという声もありました。それから小児科だけでも残してほしいとか、小児科の救急も夜間は特に近くないと大変だとか、そういう市民の声も含めてぜひなくさないようにお願いしたいというふうに思いますがどうでしょうか。

◎副議長（北山一衛） 病院事務局長。

◎黒石病院事務局長（沖野俊一） 確かに常勤の小児科の医師がなくなると現実として産科のほうにも影響は出てくるというのが現実だと考えております。黒石病院といたしましては、現在の診療科の維持というのを基本的に継続してまいりたいということには変わりはありません。そのためにも、繰り返しの答弁になりますけども小児科医師につきましても、今後も引き続き慰留を務めるとともにあらゆる方策を講じまして常勤医師の確保というのに努めてまいりたいと考えております。以上です。

◎副議長（北山一衛） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） これはなんといってもお願いするしかないということですので、ぜひ本当に頑張ってくださいと思います。

それでは津軽地域保健医療圏のところに移させていただきます。ここに再編計画策定に係るスケジュール案というのを見ましたんですが、それによるとですね、12月の初めに第2回の協議会を開いて専門部会の決定事項の承認をすると、再編成計画の素案の協議に入ると。それから12月下旬には、12月下旬から2月にかけてですけれども、再編成の計画案を市町村担当部課長会議で検討をします。そして、3月の中旬に第3回協議会を開いて再編成計画を策定していくと。こういう流れでいくわけなんですけども、先ほど市長の答弁ですと、県が27年度以降に作成するのを待ってというような形で、そう考えれば10月も11月も会議開かれてないんですよこの間ね、そうすると一時棚上げ状態というか議論も含めて国や県の方向待ちというふうな一旦棚上げ状態ということで考えていいのでしょうか。

◎副議長（北山一衛） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） 今の協議会、総務部担当私と病院事務局長が担当しております。私も出ておりますので、健康全般という形で私のほうからお答えいたします。

先ほど市長が答弁いたしましたように、国の新しい方針としてことしの6月に各都道府県で地域医療ビジョンをつくりなさいと、その地域医療ビジョンというのは各医療圏域、ここは津軽医療圏域になるんですけども、それぞれの圏域ごとに民間病院も含めて適正な病床数、それから適正なそれぞれの医療機能を組みなさいということが示されました。それに基づきまして、その協議会で医療機能部会開かれたわけですけども、県のほうがアドバイザーとして出席しております。県のほうから基本的には県で27年度以降、早いうちに出すと言ってましたけれども、県の地域医療ビジョンを出しますと、それに沿ったものでつくってくださいという御指示がありましたので、県の医療機能ビジョン、どういうものになるかというのは骨格そのものは早めに示していただけたらと思うんですけども、それに合わせて津軽圏域の医療の再編を進めていくということで進むものと考えております。まだ県のほうとしてはこの圏域全部の首長さんたちにこれから説明に回るということでしたので、その後から動き出すだろうと。実際に今のスケジュールですけども、実際にこの計画つくったのは私が病院にいたころですので、6年ほど前ですけども、6年ほど前の国の基本計画に基づいてつくったんですが、段々段々先送りになってる途中で国のほうの考え方もまた変わってきましたので、今回その医療機能ビジョンというものが出来たので、それに合わせてこの辺の再編の計画もまた変わっていくものだろうというふうに考えております。以上でございます。

◎副議長（北山一衛） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） そうするとこのスケジュール案は実質上ないものになるような、可能性が薄い計画になるということですよ。ちょっと教えてください。

◎副議長（北山一衛） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） ないものというわけではなくて、その辺はこれからの県とそれから各首長さん、協議会の委員の方々の話し合いで決まっていくわけですから、県のほうで早めに医療ビジョンの骨格を出せばそれに間に合うかもしれないし、それ次第ということになりますので。まだその辺ははっきりお答えできる状況ではないと思います。以上です。

◎副議長（北山一衛） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） 私先ほど言ったように27年の3月に策定するとなっているのはもう事実上間に合わないってことですよね。県が27年度以降につくるというわけですよ。県の構想ができるとかなり強いものじゃないかと思うんです。このようにやりなさいって言うふうなことにはなりません。

◎副議長（北山一衛） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） 今、申し上げましたように県のほうで作成するのに、もうできてからそれに合わせろって話じゃなくて、県のほうはこういう方向ですよって、多分方向性を、うちほうの津軽圏域で示していただけるって、大分こちらのほうではそういうふうに思ってますので、それがいつになるかはちょっとまだわからないと。27年度以降、ちゃんとつくるのは27年度以降ですけれども、それに対する県の考え方っていうのは、国はもう基本方針出してますので県もそれに合わせたものを出すとは思いますが、それが3月前に出るのか3月以降に出るのかまだわからないということです。それからもう一つなんでしたっけ。

（「効力が強いんじゃないかと…」と呼ぶ者あり）

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） 地域医療ビジョンっていうのは強制力を持っています。県のほうでこの病院はこれぐらいにしなさいっていうはっきりした強制力を持っているものになるということが、厚生省のほうの今回出た医療機能ビジョンの解説には書いておりますので、県のほうがこうしなさいっていうとそうやらざるを得ないというふうには考えております。

◎副議長（北山一衛） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） そうすると市民へも情報を流しながら意見を聞くというような、前回そういう、近い答弁もされたと思うんですけども、これでいくとそういう機会が、津軽圏域の中ではね、いろいろと議論するでしょうけれども、そのことを計画策定の前に市民にも議論させる、あるいはそういうのがあるのかないのか。

◎副議長（北山一衛） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） 話し合いの中身については公表できる時期には適宜皆さんのほうにも公表し、市民の方々にももちろん説明しないと、行政だけで決めるというわけにはいかないので、適宜にその辺は情報公開できるときになれば情報公開するし、議員の皆様にも説明もいたします。ただ、今のこの医療機能ビジョンっていうのは自治体病院だけではなくて民間病院も含めた話になりますので、その辺はこちらのほうでどうのこうのというわけにはいかないところもありますけれども。情報としては出せるときにはしっかりと出しますのでその辺は間違いなくやるというふうに考えております。

◎副議長（北山一衛） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） じゃあこれまで2つの専門部会で話し合われた内容というのはですね、実質上中身としては生きるのか、それとも一旦県の内容が出ないと計画もつくられないという形になるのかどちらでしょうか。

◎副議長（北山一衛） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） 総務部会が3回、医療部会が2回、医療部会の中でもいろんなドクターからいろんな御意見が出てます。県のほうから県の医療機能ビジョンに沿ったものという話が出て、今のところ、今まで話し合ったものについてはとりあえず凍結ということになります。県の医療機能ビジョン示されたらそれにまた合わせた形でもう一度話し合いが始まるというふうに理解しております。以上です。

◎副議長（北山一衛） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） あと何分ありますか。

（「あと15分ほどです」と呼ぶ者あり）

◎5番（工藤禎子） 15分くらい。そしたら1番の健康づくりのほうに入ります。

データヘルスで今政策の策定に入っているということなんですけれども、一つはレセプト分析というのも非常に大切な分析の仕方になるんですけれども。どういうふうに分析するのか。あるいは医療・介護、そして後期高齢者の方も含めてやっぱり分析する。そしてそこから課題を割り出して計画にしていくというふうな形で、確かに国保連からデータベースが出るので今まで保健師さんが手作業でやっていた健康づくりに関するデータも割と素早くできるというふうに思いますので、本当に掘り下げた分析で計画を策定してほしいなというふうに思うんですけれども、どのようになっているんでしょうか。

◎副議長（北山一衛） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） データ分析でございますけれども、今回こちらのほうで入手できるのは国民健康保険の被保険者のデータです。国保の加入者っていうのは大体保険者の半分ですので、そこから推計しても社保もそんなに変わらないだろうということで国保のほうのデータを分析し、当市で力を入れておりますのは今糖尿病の予防っていう形でやっておりますので、それらを含めて健康推進課の保健師も合わせてデータを分析、今しております。以上です。

◎副議長（北山一衛） 5番工藤禎子議員。

◎5番（工藤禎子） 研修に行った沖縄の3自治体、健康長寿の関係で調べてきました。そうすると国保の分析も例えば死亡もありますよね、死亡が65歳から70歳までが多い。その間受診が少ないと、かかってないと。そういうふうに重傷化してから病院に行くと透析というふうになっているんですけれども、本県も、透析が青森県が1位なんですよね。そのうち黒石も透析にかかるお金が結構高いんだって聞きましたが、どうなっているんでしょう。

◎副議長（北山一衛） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） どうなっているんでしょうというのは、何がどう

なっているんでしょうというのか。中身がよくわかりません。

(「数値です。値。数値というかどの辺にいたりとか、多いとか」と呼ぶ者あり)

◎副議長(北山一衛) 要するに質問の趣旨がわからないということでありますので、議長を通してやりとりしてください。5番工藤禎子議員。

◎5番(工藤禎子) 今特定健診、特定保健のところでは聞いてるわけなんですけれども、糖尿病などを含めた肥満対策の健診だわけですよ。それで糖尿病性にかかわってでもいいんですけれども、透析になってる人っていうのはわかりますか。そういうのがデータ分析なんです。これからやろうとしているでしょうけど。

◎副議長(北山一衛) 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長(村元英美) 今禎子さんがおっしゃったようにこれから分析をしますので、今のところはちょっとまだわかりません。以上です。

◎副議長(北山一衛) 5番工藤禎子議員。

◎5番(工藤禎子) それじゃあデータの青森県がBMIで3位だとか、空腹時血糖が1位だとかそうですけどもね、そういう状況も既には御存知だと思うんですけれども、そういうことを踏まえてどう反映されるかっていうか、現状もわかっているのかっていうことではどうなんでしょう。

◎副議長(北山一衛) 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長(村元英美) それらの数値については健康推進課保健師のほうでしっかり把握しております。それに対応して「健康くろいし21」、それから腹八分目とかいろいろなことをやっております。その辺で次の分析、実際の分析ですね、してこれからどういうふうな対応をしていくかと、計画組んでいくという話を先ほどしております。西部地区を先んじて糖尿病の予防という形でやっておりますけれども、西部地区だけでなく他の地区にもこれから治験を広げていくということで、そのデータ分析そのものはただ今禎子さんがおっしゃったように大変重要なことですので、力を入れていきたいというふうに思っております。以上です。

◎副議長(北山一衛) 5番工藤禎子議員。

◎5番(工藤禎子) 未受診者への対策で26年度からいろいろと努力をされているということなので、そうするとその成果のほどは速報値でいつごろわかるのでしょうか。

◎副議長(北山一衛) 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長(村元英美) 速報については27年5月末に判明します。最終結果は27年11月というふうに聞いております。以上でございます。

◎副議長(北山一衛) 5番工藤禎子議員。

◎5番(工藤禎子) 例えば成果として例年と違って出ているような反応は持っているとか、そういうの実感できることありますか。

◎副議長(北山一衛) 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長(村元英美) まだ結果的なものが出ておらないので、前年度の比較そのものはまだわかりません。以上です。

◎副議長(北山一衛) 5番工藤禎子議員。

◎5番(工藤禎子) 食育のほうなんですけれども、給食がないのがほとんどなので、3校以外ですね中学校も含めて。弁当持っていった子供たちが当然多いわけで、そうすると弁当の中身まではのぞくことはできないけれども、多分冷凍食品だとか野菜が少ないだとかカロリー、栄養バランスというところから見ればお母さんたち努力しているにしろ、いろいろとバランスからいくとあると思いますので、例えばPTAの総会だとか参観日だとか、PTAのいろんな行事だとかそういうので市の栄養士が出向いて行ってお話しとか講演とかね、食育について。そういうことも機会を捉えてやったらどうかというふうに思うんですがどうでしょうか。

◎副議長(北山一衛) 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長(村元英美) お昼の弁当についてはさすがに中身はちょっとわからないので、どれぐらいになっているかちょっとわからないんですけども、朝食についてはアンケートを取っておって、主食・主菜・副菜の3つのバランスが取れている子供の割合が5年前が34%です。26年度は39.3%と。5%ほど改善しているというふうになっております。あとうちの管理栄養士ですけども1名でずっとやっておりましたけども、ことし臨時の管理栄養士もう1人入れて2名にして、機会を捉えて、教育委員会のほうにいろいろお願いして、いつでも出ていきますということで学校行事なりそういうものが、PTAの行事なりある時には希望があればいつでも出ていくと。逆に言えばこっちでやらしてくれというふうにはお願いはしております。実際に出前講座やったり、先ほど言いましたけども各子供たちへの食育とか親への食育そのものはこれからもどんどん実施していきたいと考えております。以上です。

◎副議長(北山一衛) 5番工藤禎子議員。

◎5番(工藤禎子) 今、朝食を、きちんととっているというのが大体、それでも4割にも満たないんですけども。私前に朝食を食べている子、食べない子ということで聞いた時は8割くらいが朝食とっているようすっていうふうにデータで聞いたんですけども、やっぱり朝食の中身なんですよね。おにぎり1個で来た、パン1個で来た、菓子パンだけで来たっていうと朝から血糖値だけが上がってしまうという状況になるんですね。ですから朝食の中身も含めて学校のほうでもこれから見ていく必要が…。中身ですよ。食べないよりはいいんですけども、

その辺どうでしょう。

◎副議長（北山一衛） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） 今の話だと朝食を食べていない子っていうのは3%にも満たりません。97%ほど今食べてきております。その中でちゃんとしたバランスとれてる子が約4割と。後はもうちょっと改善したほうがいいだろうという人がいるという話です。以上です。

◎副議長（北山一衛） 以上で、5番工藤禎子議員の一般質問を終わります。

---

◎副議長（北山一衛） これで通告のありました一般質問は全部終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。

午後 1時56分 散 会

---

地方自治法第123条第2項の規定により、ここに署名する。

平成26年12月5日

黒石市議会議長 村上啓二

黒石市議会副議長 北山一衛

黒石市議会議員 後藤秀憲

黒石市議会議員 中田博文